

第25期第9回常任理事会議事録

日時：平成元年7月25日（火）13：30～17：00

場所：気象庁観測部会議室

出席者：浅井、岡村、竹内、河村、荒川、能登、古賀、
木田、中村、村上、村松

議事

A. 報告事項

1. 第25期第8回常任理事会議事録は一部修正の上承認された。
2. 各委員会報告

「庶務」

主なものは次の通り

1. 7月6日、山元龍三郎前理事長から同氏の著書「気象異常」50部が、気象学会に寄贈された。山元前理事長の希望により気象学会賛助会員(46部)に寄贈した。

「会計」

1. 6月分の収支について説明があった。
2. パソコン通信ネットワーク・ホスト局運営業務契約締結について報告があった。

「教育と普及」

1. 夏季大学の会場は、都合により気象庁講堂から東京管区気象台会議室に変更する。

「天気」

1. 4月からスタートした新用語解説は順調に進行している。
2. 「気象学への手引」は10年毎に発行しているが、明年が発行年であり作業を開始した。
3. 「IAMAP-93」について3～4回に分け、解説を掲載する。

「気象集誌」

1. 印刷方式変更にともない3号まで発行が遅れがちだったが、4号から順調に発行できる予定。
2. パソコン通信のホスト局は8月初めから試験運用を開始する予定。「天気」に開局について、お知らせを掲載する。

「気象研究ノート」

1. 167号は「水循環と収支」、8月中に発行の予定。

「奨励金」

1. 候補者を募集中。

「講演企画」

1. 春季大会の会場は、これまで主として気象庁の講堂・会議室を使用してきたが、防災上緊急の事態には気象庁の講堂を使用できないことも起こりうるので、気象庁以外で開催することについても検討する。

B. 審議事項

1. 会員の新規加入

新規加入18名、退会1名が承認された。

2. 委員の変更が次の通り承認された。

天気編集委員

新委員 林田佐智子（国立公害研究所）

旧委員 光本 茂記（同上）

3. 「山本・正野論文賞」に関する申し合わせの確認について

全理事の確認投票の結果、全員承諾により確認された。但し、投票にあった意見に従い、組織に関する箇所は不用であること、対象論文の期間は年度でなく年単位であることを確認し一部文章を訂正した。この確認書は事務局に保管することとした。

4. 「山本・正野論文賞」のメダルのデザインについて

庶務担当理事と続合計画担当理事で検討することになった。

5. 研究連絡会の活動予算について

研究連絡会の活動について、来年度予算に会議費、旅費などの活動費を盛り込むことを検討することになった。

6. 平成元年度山本賞候補者について

全理事の投票の結果、賛成多数で

中澤 哲夫会員（気象研究所）に決まった。

7. 堀内基金奨励賞候補者について

堀内基金奨励賞候補者選考委員会担当理事から報告があった。規定により全理事の投票を行うこととした。

8. 故堀内剛二会員からの寄付金追贈について

故堀内会員から500万円を気象学会に追贈するとの遺言があった故堀内会員の弁護士から連絡

があり、気象学会として受領することに決めた。また、その活用方法について常任理事会で案を作り理事会(沖縄)に提議することにした。また故堀内会員の縁故者に気象学会として礼状を出すことにした。

9. 気象講演会の後援について

気象弘主催の講演会「21世紀の気候はどうなる」について

気象庁から後援依頼があり、承認された。

日時：8月30日 14:00~17:00

会場：竹橋会館 11階 孔雀の間

10. 学会の持ち方について

地震学会会長からの地球物理学に関連する諸学会の春季大会を同時に同じ場所で開催する件に

ついでに文書、および地球電磁気、地球惑星圏学会長からの、地球物理学学会連合について話し合う機会をもつ件についての文書に対して、第8回常任理事会の審議を参考にして理事長起案の回答の説明があった。

審議の結果、地球物理学分野の学会が一層緊密に協力するため話し合うことは賛成だが、春季大会を合同して開催することには種々の観点から問題が多くなった。これを受けて理事長が回答することになった。

11. 韓国気象学会会長を秋季大会に招へいする際、旅費・滞在費は気象学会が負担することになった。

編集後記：「天気」編集委員になると投稿論文の審査担当が回ってくる。複数の方にレフリーをお願いしてコメントをいただく。レフリー・コメントをまとめて著者に送り、改稿していただく。必要なら再度レフリーに査読をお願いする。

著者に送るレフリー・コメントをまとめるに当たっては、著者の意図が論文中でより明確に表現されるように、また、できるなら著者の目指す方向がさらに発展するようにと心掛けている。

しかし、担当する投稿論文は、自分の専門外のことも

ある。そのようなときは、レフリー・コメントが単に厳しいだけのものなのか、専門家同士として著者には指導的意図が読み取れるものなのか、判断し兼ねることもある。レフリー・コメントに対して著者からの反論があるときも、同様に判断し兼ねることがある。

著者とレフリーの立場や意見のくい違いを調整し、納得のいく合意を形成していくお手伝いをするのが編集委員の役目だと考えているが、コメントの意図がよくわからないときは心苦しい。

(M. H.)